

【第7回 ワークの進め方】

（1）事例のシェア・確認：

自分たちのグループが選んだ事例について、全員が内容を理解できているか、確認する
進行役は、自分のグループの事例と立場の選択肢をブレイクアウトルームのチャットに貼り付けて共有してください

事例1（「日本語お上手ですね」は適切か）：私はある研究会で、自分と研究領域や関心が近いテーマの発表を聞いた。発表者は名前と見た目から日本以外の国にルーツのある人だと思われたため、発表が終わって廊下にいる発表者に「発表を興味深く聞きました。ところで、日本語がすごくお上手ですね。」と話しかけた。すると、相手はすこし不快そうな表情を浮かべ、次の用事もあったのか、どこかに行ってしまった。…

日本以外の国から来た（と思われる）人に「日本語がお上手ですね」と声をかけるのはA：適切である／B：適切ではない

事例2（歴史教科書の女性の記述）：・・・最近では、日本の高校の世界史、日本史の教科書で、具体的な名前を持つ女性の活動を紹介することや、歴史のなかで男性とは異なる経験をした女性たちの経験を取り上げ、歴史的な出来事をジェンダーの視点から紹介する動きがある。

歴史の教科書に、女性やジェンダーの記述をA：増やすべきである／B：増やす必要はない

事例3（美術館の対応）：私は、学芸員になるために、ある美術館での実習を行なっている。ある時、視覚障がい者の方から「そちらの美術館の展示をぜひ鑑賞したいが、目が見えないので、触ったり音声で説明してもらったりするなど、視覚以外の情報が必要です。できれば作品を触って鑑賞したいのですが、対応していただけますか？」と電話で問い合わせがありました。…

博物館・美術館は、ハンディキャップのある人の個別の要望にA：応える必要がある／B：応える必要はない

（2）それぞれの立場、理由や論拠のシェア：

グループの全員が、事例に関する問いについて、AかBのどちらかの立場に立ち、そう考える理由をできるだけ短くチャットに書く 例→「A：～～～だから」

全員がチャットに立場と理由を書いたら、一番上の人から、書いたことを口頭でも短く説明する

（3）異なる立場の人・理由・論拠について質問をしよう：

反対の立場の人やその理由・論拠について質問をしてみましょう

→進行役は、「自分とは異なる立場の人の意見や論拠を理解するために、何か質問はあるか？」と聞く

相手の立場の人全員に答えてほしい質問か、特定の人だけの質問かを確認して答えてもらう、答えに対してさらに質問はあるか、また逆の立場からの質問はないかを聞いて、この質問と答えのやりとりをしばらく続ける（一つの質問のやりとりだけが長くなる場合は、他に質問がある人はいないか尋ねる）

場合によっては、両方の立場の人（グループ全員）への質問があってもよい（それは（４）の根本的な〈問い〉につながる場合もある）

もし、グループ全員が片方の立場を選んだ場合は、全員で反対の立場の人の理由・論拠を考えてみるとよい

（４）根底にある価値や前提の違いについて話し合ってみよう：

互いの立場への質問がなくなったら、

進行役は、「A と B の意見の違いの根底に、どんなちがいがあると理解したか」「A と B の立場の人が、共通して話し合うことのできる本質的な〈問い〉・論点は何か」を受講者に尋ねて、考えてもらう